

和刻本漢籍医書總合年表——出版者名索引

小曾戸 洋

凡例

●本表は本誌三六卷四号に発表した「和刻本漢籍医書出版總合年表」の出版者名索引である。同年表は出版年次順に並べてあるので、出版者名からの検索は容易でない。よって出版者名から引けるよう新作した。

●出版者名の配列は50音順とした。個人名の場合もあれば屋号・堂号の場合もある。書名の上の漢数字は出版（印本）年（西暦）を示す。

●さきの「總合年表」は各図書館目録に拠って作製したものであるから、出版者名についての記載は遺漏が多い。よって本索引も完全なものではない。また出版者名が明らかであつても刊年不詳である場合には採られていない。

●右のごとく本表は不十分なものはあるが、いついかなる人物（組織）が漢籍医書の出版事業に関与したかを示すものとして、近世医書出版文化史を探る一端の資料となろう。あるいは出版者名のみで刊年記のない版本の出版期を推定する目安ともなる。これら出版者の活動・経歴に関しては、井上和雄『増訂慶長以来書賣集覽（正・統）』（高尾書店、一九七〇）や矢島玄亮『徳川時代出版者出版物集覽（正・統）』

（同刊行会 一九七六）なども参考にされたい。

秋田屋清兵衛

一六九二『格致余論』

秋田屋惣兵衛

一六六八『仲景全書』

一七三二『金匱要略』

秋田屋太右衛門

一八二四『中藏經』

一八二四『眼科七十二証全書』

一八二四『銀海精微』

一八四四『傷寒論』

秋田屋玉郎兵衛

一六九〇『素問玄機原病式』

秋田屋平左衛門

一六二五『素問入式運氣論奧』

一六四四『素問入式運氣論奧』

一六五一『医方考』

一六六〇『医学入門』

一六六二『医学綱目』

一六七三『万病回春』

一六七四『万病回春』

阿佐井野宗瑞

一五二八『医書大全』

淺野弥兵衛

一七二四『本草綱目序例』

一七七八『針灸經驗方』

一七八九『太平惠民和劑局方』

足利屋助六

一七九九『神農本經』

蘆葦左衛門

一六二八『玉機微義』

一六三〇『泰定養生主論』

荒木利兵衛

一六五三『薛氏內科医案』

一六五八『医方大成論』

一六六二『万病回春』

医学聚珍版(江戸)医学館

一八一四『聖濟總錄』

石田治兵衛

一六九三『婦人良方大全』

一七八六『備急千金要方』

一八一四『三因極一病証方論』

石原和

一八二五『傷寒舌鑑』

石原茂兵衛

一七七二『絳雪園古方選註』

泉太兵衛

一八〇四『雜疫論』

泉本八兵衛

一七八八『脾胃論』

一七八八『弁惑論』

一七八九『太平惠民和劑局方』

一七九三『銀海精微』

和泉屋市兵衛

一六九三『本草匯』

和泉屋卯兵衛

一七三二『痘疹金鏡錄』

一七四三『神農本經』

和泉屋庄次郎

一七九九『神農本經』

一八〇〇『微瘡結毒方論』

和泉屋治郎兵衛

一七七二『絳雪園古方選註』

和泉屋善兵衛

一七九九『東医宝鑑』

一八二八『東医宝鑑』

一八四四『傷寒論』

和泉屋半兵衛

一八四四『傷寒論』

和泉屋文介

一七六五『傷寒百証歌發微論』

和泉屋吉兵衛

一八三七『質問本草』

一八四四『傷寒論』

一八五二『医学源流論』

出雲寺和泉

一七五六『仲景全書』

一八三九『傷寒論』

出雲寺和泉丞

一七〇五『黄帝内經素問』(吳注)

一七一五『傷寒論』

出雲寺松柏堂

一八三九『傷寒論』

出雲寺文治郎

一八四四『傷寒論』

伊丹屋善兵衛

一七九七『傷寒論』

一八二二『活幼心法』

一八三九『傷寒論』

伊丹屋太郎右衛門

一六九二『婦人良方大全』

一六九三『婦人良方大全』

一條道場迎称寺

一五九八『医方大成論』

伊藤五郎兵衛

一六八三『医学入門万病衡要』
医徳堂守三

一六〇四『十四経発揮』

一六〇五『玉機微義』

井上忠兵衛

一七〇六『外科正宗』

茨木多左衛門

一六八八『眼科七十二証全書』

一七一三『医宗必読』

茨城多左衛門

一七三四『痘疹全書博愛心鑑』

茨木多左衛門方淑

一六八七『医宗必読』

岩田七兵衛

一六二七『勿聽子俗解八十一難経』

上田卯兵衛

一七三二『痘疹金鏡録』

植村氏芳蘭樹

一七九九『類証活人書』

上村次郎右衛門

一六四五『諸病源候総論』

一六四八『儒医精要』

一六五四『銅人腧穴針灸図経』

一六六七『黄帝内經素問』

- 一六六八『傷寒論』
- 一六六八『仲景全書』

植村藤右衛門

- 一六五八『医説』(玉枝軒―)
- 一六五八『統医説』(玉枝軒―)
- 一六八七『万病回春』
- 一六八九『内府秘伝經驗女科』
- 一七三二『金匱要略』
- 一七三四『痘疹全書博愛心鑑』
- 一七三七『張景岳傷寒全書』
- 一七四〇『黄帝素問宣明論方』
- 一七五九『腫脹全書』

植村藤三郎

- 一七二四『痧脹玉衡書』
- 一七二九『本草備要』
- 一七三二『太平惠民和劑局方』
- 一七三二『張景岳新方彙』
- 一七三七『活幼心書』
- 一七四〇『黄帝素問宣明論方』
- 一七四一『痧脹玉衡書』

植村藤次郎

- 一七二九『精選治痢神書』
- 一七二九『寓意草』

植村藤治郎

トル

- 一七二九『本草備要』
- 一七三二『痘疹金鏡録』

- 一七三二『張景岳新方彙』

- 一七三四『敵氏濟生方』

植村氏芳蘭榭

- 一七九九『類証活人書』

宇野善五郎

- 一六二八『玉機微義』

- 一六三〇『泰定養生主論』

梅村三郎兵衛

- 一八二七『傷寒論』

梅村宗五郎

- 一七五八『救偏瓚言』

梅村弥右衛門

- 一六四五『諸病源候總論』

英椿堂

- 一七七四『徽瘡秘録』

永楽屋東四郎

- 一八〇八『難經本義』

越後屋治兵衛

- 一六九三『三因極一病証方論』

江戸医学

- 一八四九『備急千金要方』

榎並甚兵衛

一六九五『十四経發揮』

大路次郎右衛門

一七九九『救荒本草』（——長松堂）

太田又右衛門

一七六〇『格致余論』

大野木市兵衛

一七一四『先醒齋筆記』

一七二四『湯頭歌訣』

大和田意閉

一六三六『婦人良方大全』

大和田忠輔

一八〇三『痘疹不求人方論』

岡田三郎右衛門

一七四三『神農本経』

岡田氏謙龍軒

一七六三『錢氏小兒方訣』

岡田屋嘉七

一八四四『傷寒論』

一八四七『引痘略』

一八五七『黄帝内経素問』

岡村庄右衛門

一六三三『濟世良方』

小川源兵衛

一七七九『感症編』

小川氏稽古齋

一八二七『傷寒論貫珠集』

小瀬甫庵（医）

一五九六『医方大成論』

一五九六『十四経發揮』

一五九七『医学正伝』

一五九七『東垣十書』

尾張医学

一八三九『五藏六府変化傍通訳』

会通館

一六一六『素問玄機原病式』

加賀屋卯兵衛

一七二八『傷寒明理論』

加賀屋善藏

一八二六『喉科指掌』

鍵屋七郎兵衛

一七〇九『祖剂』

学訓堂（喜多村直寛・医）

一八五一『耆婆五藏論』

一八五五『養生』

一八六一『医方類聚』

柏原屋清右衛門

一八二三『傷寒論』

一八二七『傷寒論』

柏原屋清左衛門

一七七七『痘科鍵』

柏原屋与左衛門

一六九〇『十葉新書』

糟淵權兵衛

一七一四『医鏡』

勝村治右衛門

一八〇一『金匱要略』

桂川国瑞(医)

一七九五『瑞竹堂經驗方』

金屋半右衛門

一六八三『医学正伝或問』

川勝五郎右衛門

一六九六『幼科急救推拿奇法』

一七二八『痘疹心要全書』

川勝七郎兵衛

一七一六『医弁』

河善六

一七七五『大觀本草』

河内屋嘉兵衛

一七九六『十四経発揮』

河内屋吉兵衛

一七九九『東医宝鑑』

河内屋喜兵衛

一六七七『素問玄機原病式』

一七一三『医方大成論』

一七八二『医方大成論』

一七九六『弁惑論』

一七九九『東医宝鑑』

一八〇〇『医宗金鑑』

河内屋太助

一七九九『東医宝鑑』

河内屋長兵衛

一八二三『痘疹活幼心法』

河内屋八兵衛

一六七七『素問玄機原病式』

一七一三『医方大成論』

一七九一『眼科七十二証全書』

河内屋茂兵衛

一七四二『中藏経』

一七九一『外科正宗』

含英堂

一八四四『傷寒論』

喜左衛門

一七一四『本草綱目』

北尾八兵衛

一六七一『丹溪心法附余』

一七〇〇『脈經』(玉水屋——)

北田清左衛門

一七四三『神農本經』

一七六二『傷寒五法』

吉文字屋市兵衛

一七四二『中藏經』

一七七二『錦囊妙藥秘錄』

一七七七『本草逢原』

一七八四『玉機微義』

木村吉右衛門

一七二八『本草備要』

一七二九『本草備要』(濟世堂——)

木村源兵衛

一六四五『諸病源候總論』

九畹堂

一八四六『引痘略』

九折堂(山田業広・医)

一八五三『金匱要略方論』

金花堂

一八〇四『張氏医通』

日下宗淳(朝倉孝景)

一五三六『勿聽子俗解八十一難經』

栗原次郎兵衛

一七二四『傷寒舌鑑』(板木屋——)

栗山宇兵衛

一六九八『本草原始』

黒沢玄長

一六四四『難經本義』

黒沢源兵衛

一六二一『丹溪先生医書纂要心法』

見義堂(紀州和歌山——)

一六一四『儒医精要』

好古堂

一七五八『傷寒五法』

一七六二『傷寒五法』

弘昭軒書林(糸屋市兵衛)

一七五三『針灸要旨』

弘文閣(北島順四郎)

一八〇〇『疹子心法』

広文堂

一七四六『金匱玉函經』

小島弥左衛門

一六四八『魯府禁方』

一六五〇『種杏仙方』

小島弥平次

一六五九『医説』

児玉新四郎

一七〇六『黄帝内經素問』(呉注)

梧桐館

一七五八『傷寒五法』

一七六二『傷寒五法』

小林庄兵衛

一七六四『痘疹活幼心法』

小林太郎兵衛

一六七一『全幼心鑑』

齋藤治郎兵衛

一七四七『傷寒活人指掌』

堺屋伊兵衛

一八〇五『錢氏小兒藥証直訣』

一八一八『嬰兒論』

一八二六『喉科指掌』

堺屋儀兵衛

一八〇三『溫疫論類編』

堺屋仁兵衛

一七七〇『溫疫論』

一八〇三『溫疫論類編』

一八〇八『治痧要略』

坂本多四郎

一七六二『傷寒五法』

沢田庄左衛門

一六四三『醫方大成論』

塩屋平助

一七八二『醫方大成論』

茲眼久徳

一六一一『万病回春』

思得堂(前田氏——)

一八〇四『張氏医通』

渋川清右衛門

一六九六『石山居士医案』

一七五三『傷寒論百問』(称觥堂——)

一七五七『肘後百一方』

一七七八『易簡方』

清水敬長(医)

一七四六『金匱玉函経』(成美堂——)

一七四八『金匱玉函経』(成美堂——)

下村生蔵

一六〇五『医学正伝』

聚文堂

一六八四『難経本義』

如庵宗乾(医?)

一五九六『証類本草序例』

称觥堂

一七四六『肘後百一方』

称光堂

一七九三『銀海精微』

尚書堂(堺屋仁兵衛)

一八四三『温疫論』

松梅軒

一六六一『奇効医述』

松葉軒（万屋清兵衛）

一七三四『痘疹全書博愛心鑑』

仁左衛門

一六五一『医学指南捷経六書』

進修書屋

一七六五『傷寒百証歌笈微論』

申椒堂（須原屋市兵衛）

一七七八『幼科種痘心法要旨』

杉田勘兵衛

一六三五『名医類案』

須原屋市兵衛

一七六三『錢氏小兒方訣』

須原屋伊八

一七九七『傷寒論類方』

一八〇〇『難経経釈』

一八三九『傷寒論』

須原屋仁兵衛

一七六三『錢氏小兒方訣』

須原屋善五郎

一七九七『傷寒論類方』

一八〇〇『難経経釈』

須原屋平左衛門

一七九八『十四経発揮』

一八〇五『十四経発揮』

須原屋平助

一七一六『十四経発揮』

一七六三『錢氏小兒方訣』

一七九八『十四経発揮』

須原屋孫七

一七四二『金匱要略方論』

一八〇六『金匱要略』

須原屋茂兵衛

一六八八『医方大成論』

一七七五『傷寒論』

一七七七『痘科鍵』

一七七九『傷寒論』

一八〇〇『疹子心法』

一八〇一『傷寒論』

一八〇六『痘疹大成集覽』

一八二三『傷寒論』

一八二四『中藏経』

一八二四『銀海精微』

一八二四『眼科七十二証全書』

一八四一『嶺南衛生方』

一八四四『傷寒論』

角屋清左衛門

一六九二『傷寒六書纂要弁疑』

聖濟堂

一六六八『仲景全書』

躋寿館（江戸）医学館）

一八三五『註解傷寒論』

一八四四『註解傷寒論』

一八六三『神農本草經百種錄』

生白堂（戸倉屋喜兵衛）

一七七五『大觀本草』

瀬尾源兵衛

一七三二『丹溪朱先生医案』

関吉衛門

一六一六『証類（備用）本草序例』

一六一六『医方大成論』

積玉圃（河内屋喜兵衛）

一七九七『医宗金鑑』

錢屋儀兵衛

一六八二『医学正伝或問』

千賀芳久

一七九八『御薬院方』

千賀芳精思堂

一七九八『御薬院方』

繕生薬堂

一七九六『外科大成』

叢桂堂

一七五八『救偏瓊言』

存誠薬室（多紀元堅・医）

一八五〇『扁鵲倉公伝』

大観堂

一七七五『大観本草』

大黒町助衛門

一六一七『勿聴子俗解八十一難経』

台寿堂

一八一九『傷寒論治発明溯源集』

平宣政

一六一二『医方大成論』

一六一二『珍珠囊』

高橋清兵衛

一六五二『医方大成論』

高橋平助

一八二三『銀海精微』

多紀氏聿修堂（医）

一七九七『傷寒論類方』

多紀氏敬業楽群楼（医）

一八二三『黄帝蝦蟇经』

一八二三『本草衍義』

溜纓堂

一七九九『是齋百一選方』

一八〇四『黃帝八十一難經』(千田恭一)

竹内英仙

一八二三『褚氏遺書』

竹田藤助

一七二四『痧脹玉衡書』

武田治右衛門

一六九二『痘疹世医心法』

武村市兵衛

一六二八『黃帝内經素問註証發微』

一六二八『黃帝内經靈樞註証發微』

一六四五『針灸聚英發揮』

一六五二『黃帝八十一難經』

一六五四『薛氏医案十六種』

一六五九『黃帝明堂灸經』

一六六二『内經知要』

一六七一『素問入式運氣論奧』

武村嘉兵衛

一六六三『外科正宗』

一七三四『医学發明』

一七七四『微瘡秘錄』

一七九一『外科正宗』

武村新兵衛

一六七三『褚氏遺書』

一六七三『救急易方』

一六七七『素問玄機原病式』

一六七八『產宝百問』

一六八五『素問入式運氣論奧』

一六九五『幼科發揮』

一六九六『傷寒尚論篇全書』(——博古堂)

一七〇四『傷寒論後條弁』(——博古堂)

一七二三『傷寒論條弁』

田中清左衛門

一六六〇『赤水玄珠』(唐本屋一)

田中庄兵衛

一六五〇『種杏仙方』

田中清兵衛

一六七三『救急易方』

田中長左衛門

一六七一『証治類方』

田辺会英堂

一七二八『痘疹心要全書』

谷岡七左衛門

一六五三『丹溪先生医書纂要』

一六六〇『難經本義』

一六六五『中藏經』

谷口七左衛門

- 一六九三 『小兒病源方論』
- 田縁叔平
 - 一七一 一 『儒門事親』
- 玉村次左衛門
 - 一六五九 『医説』
- 田原仁左衛門
 - 一六四五 『丹台玉案』
 - 一六四五 『神応経』
 - 一六四五 『諸症弁疑』
 - 一六六一 『奇効医述』
 - 一六六六 『痘疹活幼心法』
 - 一六七一 『素問入式運氣論奥』
- 田原二左衛門
 - 一六五八 『本草約言』
 - 一六六〇 『本草約言』
- 丁字屋嘉助
 - 一八三九 『傷寒論』
- 辻井吉衛門
 - 一六八九 『局方發揮』
- 辻本儀兵衛
 - 一八五四 『温疫論』
- 津田藤右衛門
 - 一七二六 『傷寒直格』
- 敦賀屋久兵衛
 - 一六二六 『察病指南』
 - 一六四八 『難経本義』
 - 一六五九 『備急千金要方』
 - 一六六〇 『備急千金要方』
- 敦賀屋九兵衛
 - 一七一五 『素問入式運氣論奥』
 - 一七一五 『内経知要』
 - 一七五三 『傷寒舌鑑』
 - 一七九七 『麻疹精要』
- 寺前勘右衛門
 - 一六二三 『医学源流』
- 寺町市右衛門
 - 一六一九 『万病回春』
- 伝施堂
 - 一七九七 『胃氣論』
- 天王寺屋権七
 - 一六五六 『古今医鑑』
- 銅駝書林(平楽寺)
 - 一六七〇 『証治準繩』
- 道伴(中野市右衛門)
 - 一六二八 『黄帝内経素問註証発微』
 - 一六二八 『黄帝内経靈枢註証発微』
 - 一六三〇 『傷寒六書』
- 唐本屋喜右衛門
 - 一六三〇 『傷寒六書』

一六七七『医学入門万病衡要』
唐本屋清兵衛

一七一四『本草綱目』

一七二八『傷寒明理論』

一七二八『傷寒兼証析義』（——玉芝堂）

唐本屋宗兵衛

一七一四『医鏡』

唐本屋八郎兵衛

一七一五『本草綱目』

母井藤兵衛

一七二四『東医宝鑑』

徳田十兵衛

一六七一『薛氏内科医案』

戸倉屋喜兵衛

一六九〇『難經本義』（利倉屋喜兵衛）

一七二五『微瘡秘録』（生白堂——）

一七三〇『痘科鍵』（生白堂——）

一七三四『韓氏医通』

一七四八『易簡方』

一七七四『微瘡秘録』（生白堂——）

一七七七『痘科鍵』（生白堂——）

富倉太兵衛

一六九〇『十薬新書』

富野次右衛門勝武

一六八七『医宗必読』
中川茂兵衛

一六六八『傷寒論』

一七一五『針灸要旨』

一七四一『診家枢要』

永田調兵衛

一六八九『雲林神叢』

一七一五『傷寒論』（文昌堂——）

一七三一『十四経發揮』

一八〇六『金匱要略』（文昌堂——）

一八三九『傷寒論』

中津喜兵衛

一七七五『大觀本草』

中西卯兵衛

一六八八『眼科七十二証全書』

一七六二『外科百効全書』

中野市衛門

一六三〇『傷寒六書』（道伴）

一六六八『万病回春』

中野小左衛門

一六四六『察病指南』

一六六一『医林類証集要』

中野宗左衛門

一七五六『仲景全書』

永原屋孫兵衛

一七一九『痘疹慈幼津椈』

中村五兵衛

一六六九『格致余論』

中村七兵衛

一六七二『古今医鑑』

中村宗道庵

一六四六『諸症弁疑』

中村長兵衛

一六六一『窮郷便方』

中村孫兵衛

一六九二『痘疹碎金賦』

一六九五『痘疹格致要論』

長村半兵衛

一七三一『十四経発揮』

名倉又兵衛

一七八七『温疫発微』

奈良長兵衛

一七八六『錢氏小児方考』

西村吉兵衛

一七七四『微瘡秘録』

西村喜兵衛

一六九七『本草摘要』

西村九郎右衛門

一六九二『保産機要』

西村源六

一七三二『太平惠民和劑局方』

西村市郎右衛門

一六九二『病機沙篆』

一六九四『本草通玄』

一六九四『診家正眼』

一六九五『李士材三書』(載文章——)

一七二九『本草備要』

一七四一『診家枢要』

西村半兵衛

一六九二『保産機要』

一六九五『李士材三書』

西村又右衛門

一七三二『太平惠民和劑局方』

西村理右衛門

一六九二『痘疹世医心法』

野田庄右衛門

一六六一『名医類案』

野田藤八

一六九三『三因極一病証方論』

野田弥次右衛門

一六三七『本草綱目』

一六五三『奇経八脈考』

野田弥兵衛

一六四五『明医雜著』

梅寿

一六〇八『黄帝内經素問註証發微』

一六〇九『医方大成論』

一六〇九『黄帝内經靈樞註証發微』

一六〇九『証類本草序例』

一六一〇『医方大成論』

一六一一『医学源流』

一六一一『医方大成論』

一六一一『素問入式運氣論奧』

一六一二『本草序例』

一六一四『素問入式運氣論奧』

一六一六『素問入式運氣論奧』

一六一七『難經本義』

一六一八『十四經發揮』

一六一九『名医方考』

一六二〇『証類本草序例』

一六二〇『雲林神叢』

一六二〇『万病回春』

一六二一『医学正伝』

一六二四『傷寒明理論』

一六二四『保赤全書』

一六二五『素問入式運氣論奧』

一六二五『十四經發揮』

一六二五『黄帝内經靈樞註証發微』

一六二六『素問玄機原病式』

一六二九『医方考』(猪子)――

一六三〇『素問玄機原病式』

一六三一『十四經發揮』

博愛堂

一七二三『痧脹玉衡書』

博古堂(武村新兵衛)

一六九六『傷寒尚論篇全書』

一七〇四『傷寒論後條弁』

一七〇五『幼科發揮』

博文堂(丸屋市兵衛)

一七四六『金匱玉函經』

長谷川市郎兵衛

一六六六『医学正伝或問』

英大助(万笈堂)

一八四四『傷寒論』

英平吉(万笈堂)

一八一〇『痘疹万論』

林伊兵衛

一七六三『続医説』

一七八九『仲景全書』

一七八九『太平惠民和剂局方』

一七九一『外科正宗』

一七九七『嬰兒論』

一七九九『類証活人書』

一八〇二『積骨』(百芳堂——)

林嘉兵衛

一八〇〇『蘇沈內翰良方』

林喜兵衛

一七二八『本草備要』

一七九九『備急千金要方』

一八〇五『石山居士医按』

林久次郎

一六九八『本草原始』

林權兵衛

一七二八『傷寒明理論』

一七四二『金匱要略方論』

一七四三『傷寒論・金匱要略』(文泉堂——)

一七五六『劉涓子鬼遺方』(文泉堂——)

一七七〇『温疫論』(文泉堂——)

一七八〇『宝氏秘方』

一七八八『金匱要略』(文泉堂——)

一七八九『仲景全書』

一七九一『外科正宗』

一七九二『医宗金鑑』

一七九七『温疫論』

一八〇一『金匱要略方論』(文泉堂——)

一八〇六『金匱要略』(文泉堂——)

一八一四『幼幼集成』

一八四一『金匱要略心典』

林重右衛門

一六六〇『十四經發揮』

林述齋

一八〇三『黄帝八十一難經』

林鐘吉

一六六六『痘疹活幼心法』

林甚兵衛

一六四八『格致余論』

一六五四『雲林神效』

一七一五『傷寒論』

林伝左衛門尉

一六六〇『万病回春』

林徳兵衛

一七三二『丹溪朱先生医案』

林芳兵衛

一七八八『金匱要略』

一八二三『金匱心典』

一八四一『金匱要略心典』

汎觀堂

一七五七『相法五卷函』

菱屋三郎右衛門

一七七四『黴瘡秘録』

平野屋佐兵衛

一七二三『傷寒論條弁』

風月庄左衛門

一六五三『婦人良方大全』

一八二三『傷寒論』

一八二三『金匱要略』

風月莊左衛門

一六六三『黃帝內經靈樞』

一六六九『本草綱目』

一七三四『医学発明』

一七六一『傷寒通玄類証』

一八二七『傷寒論』

風月堂莊左衛門

一六六三『黃帝內經素問』

一八四一『嶺南衛生方』

風月宗知

一六三二『脈訣刊誤集解』

一六四〇『針灸聚英発揮』

一六四一『格致余論』

一六四五『寿世保元』

風月堂孫助

一七九九『蘇沈内翰良方』

伏見屋作兵衛

一八〇九『治痧要略』

伏見屋藤兵衛

一七三二『痘疹金鏡録』

藤屋弥兵衛

一七七七『本草逢原』

富春堂

一六〇二『脈語』

文台屋次郎兵衛

一六四六『素問入式運氣論奥』

一六六六『痘疹活幼心法』(臨泉堂)

文台屋治郎兵衛

一六六六『痘疹活幼心法』

一六九六『普渡慈航』

船津新右衛門

一七四七『傷寒活人指掌』

文海堂(柏屋兵助)

一七九七『医宗金鑑』

一七五三『張氏医通傷寒舌鑑』

平樂寺銅駝書坊(村上勘兵衛)

一六七三『瘍医準繩』

坊門書堂

一六二三『難經本義』

葆真堂

一六六〇『黄帝内经素問』
保生院書塾

一八四五『医墨元戎』

堀川氏觀理藥室（堀川舟庵・医）

一八五六『傷寒論』

堀野屋仁兵衛

一八〇三『温疫論類編』

前川勘右衛門

一六七二『古今医鑑』

前川權兵衛

一七二四『痧脹五衡書』

一七三二『太平惠民和劑局方』

前川六左衛門

一七七〇『温疫論』

一七八七『温疫發微』

一七八八『温疫論』

前田氏思得堂

一八〇四『傷寒大成』

一八〇四『本経逢原』

升屋五郎右衛門

一七一〇『華佗内照図』

升屋孫兵衛

一七三六『其慎集』

松浦善兵衛

一七八五『太平聖惠方』
松会

一六七五『十四経發揮』

松会三四郎

一六七五『医方大成論』

松枝元亮

一七七七『揚氏家藏方』

松下見林（儒・医）

一六六八『習医規格』

松下睦鶴堂

一七一〇『儒門事親』

松田義厚

一七八九『本草新編』（白勝堂）

松葉清兵衛

一六九四『薛氏内科医案』

松村九兵衛

一七九七『医宗金鑑』

松本平助

一八〇三『傷寒論証治發明溯源集』

松本幸彦

一八三二『千金方』

曲直瀬玄朔（医）

一六〇七『難経本義』

丸屋市兵衛

一六二九 『医方大成論』
丸屋瀧庄三良

一六五一 『医方大成論』
万卷堂(菱久八郎)

一七二七 『傷寒明理論』
水田甚左衛門尉

一六六一 『外科發揮』
三田屋喜八

一八五七 『黄帝内經素問』
皆山三郎右衛門

一七七四 『微瘡秘錄』
向井八三郎(河内屋)

一七三六 『普濟本事方』
一七三八 『普濟本事方』

村上勘兵衛

一六五九 『局方發揮』

一六六五 『格致余論』

一六六五 『医門法律』

一六六六 『格致余論』

一六六七 『痘疹撮要』

一六六八 『銀海精微』

一六六九 『格致余論』

一六七〇 『雜病証治類方』

一六七三 『傷寒証治準繩』

一六七三 『瘍医準繩』

一六七三 『女科証治準繩』

一六七三 『幼科証治準繩』

一六七九 『医方大成論』

一七二二 『医学入門』

一七八六 『備急千金要方』

一七八七 『温疫發微』

村上平樂寺

一六二二 『医学正伝』

一六三六 『济世全書』

一六三九 『本草序例』

一六四七 『太平惠民和劑局方』

一六四八 『医方大成論』

一六五〇 『脈經』

一六五〇 『素問玄機原病式』

一六五一 『素問玄機原病式』

一六五五 『医学正伝或問』

一六六四 『玉機微義』

一六七〇 『雜病証治類方』

一六七三 『瘍医準繩』

一六七三 『幼科証治準繩』

一六七七 『医学入門』

著屋勘兵衛

一六七七 『素問玄機原病式』

一七一九 『痘疹茲幼津椀』
茂齋

一六五九 『本草綱目』
本屋喜三郎

一七三〇 『痘科鍵』

八尾玄長(医)

一六六六 『医学入門』

八尾六兵衛

一六七一 『祖劑』

安田十兵衛

一六四七 『万病回春』

柳川了長

一七〇五 『幼科発揮』

柳河氏仰山館

一七七九 『其慎集』

柳原喜兵衛

一七七四 『達生編』

一七八八 『弁惑論』

一八〇〇 『傷寒論』

山口又一郎

一七七〇 『千金翼方』

山崎金兵衛

一七七六 『疹科纂要』

山崎克明(医)

一七九九 『蘇沈内翰良方』

山崎宗運寄所寄楼(医)

一七九八 『积骨』

山城屋佐兵衛

一八四四 『傷寒論』

一八五七 『黄帝内経素問』

山田市郎兵衛

一六五九 『仲景全書』

山田三良兵衛

一六九三 『三因極一病証方論』

一七六二 『外科百効全書』

山田順庵

一八四七 『医墨元戎』

山田屋長右衛門

一六九三 『本草匯』

大和屋伊兵衛

一六九二 『傷寒六書纂要弁疑』

大和屋又七

一七七四 『微瘡秘録』

一七八三 『集驗良方』

山本五兵衛

一六六三 『鍔太天宝太素張神仙脈訣微綱領』

山本長兵衛

一六五七 『東垣十書』

- 一六六五『十四経発揮』
 一七六一『傷寒通玄類証』
 一七六二『十四経発揮』
 一七七〇『千金翼方』
 一八〇一『傷寒論』
 山森六兵衛
 一六六六『幼幼集』
 山屋治右衛門
 一六五一『食物本草』
 幽松軒
 一七七〇『千金翼方』
 湯口弥三郎
 一七〇二『濟陰綱目』(恒心堂——)
 一七一〇『濟陰綱目』(恒心堂——)
 養寿院(山脇氏・医)
 一七四六『外台秘要方』
 一八三九『外台秘要方』
 吉田四郎衛門
 一六七三『褚氏遺書』
 吉田原仁左衛門
 一六三三『難經本義』
 吉野爲八
 一七七五『大觀本草』
 吉野屋
- 一七二六『医方集解』(——博文堂)
 一七二七『医方集解』
 芳野屋権兵衛
 一六七三『証治準繩』
 吉野屋権兵衛尉
 一六四二『医略正誤』
 一六四九『素問入式運氣論奧』
 一六五九『素問玄機原病式』
 一六五九『医学正伝』
 一六五九『万病回春』
 芳野屋作十郎
 一六四六『素問入式運氣論奧』
 一六八四『難經本義』
 一六八九『局方発揮』
 一六八九『格致余論』
 一七〇〇『医学正伝或問』
 一七〇九『十四経発揮』
 一七一一『素問玄機原病式』
 芳野屋重郎兵衛
 一七二八『医方集解』
 吉野屋徳兵衛
 一六八四『難經本義』
 一六八九『格致余論』
 一七〇〇『医学正伝或問』

吉村吉左衛門

一六九三『黄帝内经素問』（呉注）

予章堂

一七一四『本草綱目』

万屋喜兵衛

一六二二『医学源流』

一六四六『素問入式運氣論奥』

一七〇九『医方大成論』

万屋作右衛門

一六四五『諸病源候総論』

一七四三『外科正宗』

万屋庄兵衛

一六八三『医方大成論』

万屋清兵衛

一七一六『痘疹全書博愛心鑑』

一七一六『疹科纂要』

柳枝軒（小川）

一七一三『医宗必読』

凌雲亭

一七九四『弁証録』

靈耆軒（著屋勘兵衛）

一六七七『素問玄機原病式』

脇坂仙次郎（八文字屋）

一八〇四『張氏医通』

（北里研究所附属東洋医学総合研究所・医史学研究部）

胎児への

まなざし

バーバラ・ドゥーデン著
田村雲供訳

いつ、どのようにして“胎児”は
“生命”として絶対的、普遍的価
値を与えられるに至ったのか。
十八世紀、ドイツの産科医シユト
ルヒの診察記録をもとに、現代の
女たちの身体知覚の喪失と胎児へ
の認識の変容を読み解く。

四六判二二四頁 定価二、〇六〇円

あうん
阿吽社

京都市上京区寺町今出川上ル四鶴山町一四
TEL 〇七五（二一一）四八七〇（FAX 兼用）